

「第6回いやしの里備中中津井カラクリ祭り」を開催

中津井やまびこ会

活動の目的

過疎・高齢化が進む地域の活性化を図るため、日本昔話を中心のテーマとした水力のカラクリ人形等を展示する「いやしの里備中中津井カラクリ祭り」を、民家などに古式雛等の展示。児島の塩田王「野崎家」への輿入れ道中の再現等を行う「備中中津井雛の文化まつり」を開催し、地域の文化・歴史・観光・特産品等のPRや振興を図る。

活動の内容及び経過

地区住民が集まり、平成14年3月に「第1回中津井雛の文化まつり」を開催、平成17年3月の第4回のまつりから駕籠による道中行列を始めた。平成22年3月の第9回のまつりから馬の輿入れ道中行列を、平成26年のまつりから「双鶴の舞い」も実施している。また、平成26年から秋のイベントとして、日本の昔話を中心とした水車からくり「いやしの里備中中津井カラクリ祭り」を開催している。

本年度は、5月に総会を開催し、7月から準備に入り、人形の制作、広報を行い、10月13日（日）・14日（月）に「第6回・いやしの里備中中津井カラクリ祭り」を開催し、水力のカラクリ人形を35基と水車、ミニチュアの古民家などを展示、地域産品の販売を行った。「雛の文化まつり」は、本年1月からポスター、チラシの配布、看板、のぼりの設置を始めたほか、2月1日に桃枝を採取、準備を進めていたが、3月に入り、新型コロナウイルスの蔓延による自粛要請があり、中止を決定した。

活動の成果・効果

- 年々、知名度も高まり、中国・近畿地方からも観光客が訪れるようになった。
- 中津井地区は古くから栄え、吉備の大宰「石川王」の墓と言われ、国指定となっている「大谷・定古墳群」などの多くの古墳があるほか、伊勢亀山藩の飛地領として江戸時代末まで藩の陣屋が置かれたところで、その歴史のなごりを紹介できた。
- まつりの運営や地域の人が出展したテント村では、地元の食べ物や「地元特産物」、「手作り陶器」、「手芸品」等を販売をすることで、地域の活性化と地域でまつりを盛り上げようとの連帯感が強まった。

今後の課題と問題点

- まつりは手づくりで経費を最小限に抑えているが、今後、資金の確保が課題である。
- まつりの準備や実施には大勢のスタッフが必要で、準備の期間が長くかかるが、地域住民の高齢化が進み、準備、



運営スタッフや行列出演者の確保に苦慮している。

- 多くの観光客が訪れるようになり、自家用車やバスなどの駐車場として、小学校など4カ所を用意していたが、小学校統合による廃校で、跡地が民間に売却されたため、新たな駐車場の確保が課題である。
- 民家も高齢化や空き家も増え、雛の展示場所の確保も厳しくなっている。
- まつり備品等が増え、収納場所に苦慮している。

- 代表者：池田安夫 ●所在地：真庭市中津井
- TEL：0866-52-3815 ●E-MAIL：you751fuji@ninus.ocn.ne.jp
- 設立年：2001年 ●メンバー数：347名